

週刊為替市況見通し

2012/2/6
岡藤商事株式会社

【先週の値動き】

	週始値	週高値	週安値	週終値	今週の予想レンジ
東京ドル/円(銀行間)	76.75	76.78	76.11	76.19	76.30~77.30

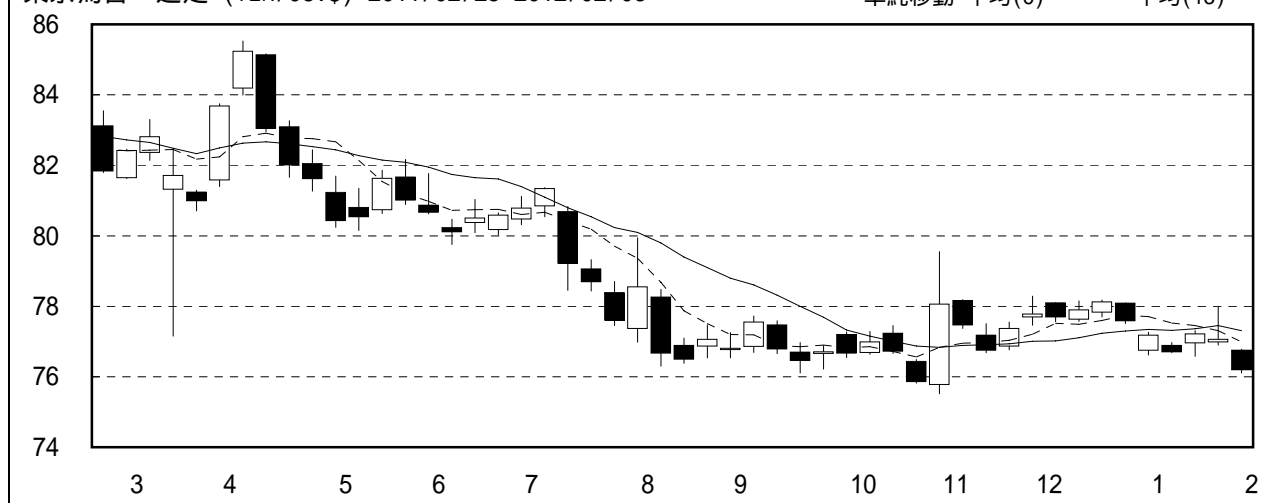
【今週のポイント】

	予想	前回
2/7 豪) 豪中銀理事会(金利発表)		
2/7 独) 12月独鉱工業生産(前月比、%)	-0.7	-0.6
2/9 英) 12月英鉱工業生産(前月比、%)	N/A	-0.6
2/9 米) 米新規失業保険申請件数(2/4までの週、1000件)	410	367
2/9 中) 1月中国PPI、CPI		
2/9 英) 英中銀金融政策委員会(金利発表)		
2/9 欧) ECB理事会(金利発表)		
2/10 豪) 豪中銀金融政策声明		
2/10 米) 12月米貿易収支(10億ドル)	-48.0	-47.75
2/10 米) 2月米ミシガン大消費者信頼感指数速報	N/A	75.0

ユーロドルは、先週は方向感無く 1.3025~1.3225 ドルのタイトレンジで推移し、1.3158 ドルで越週した。一方、ドル円は 76.02 円を安値に 76.50 越えて買い戻し反転、76.59 円で越週。1月の米雇用統計は雇用者数増加から目先の緩和期待が後退しドル高に反転した。ギリシャの債務支援交渉が大詰めを迎える中でユーロ買いも進展せず、一方で豪ドル、カナダドル等の買いが既に蓄積されており、一旦はポジション調整が先行しつつ、ドル高にバランスが傾く可能性がある。1月FOMC(連邦公開市場委員会)ではゼロ金利誘導継続は2014年中まで延長され、あわせてインフレターゲット目標2%が導入された。緩和アクションを前提としつつ景気拡大基調を確認して行く展開が見込まれる。ドル円は一旦、77.30円への円安方向をトライして行く可能性が高い。

東京為替 週足 (YEN/US.\$) 2011/02/25-2012/02/03

----- 単純移動 平均(6) ———— 平均(13)



当レポートは情報提供を目的としており、お取引の判断はご自身で行ってください。

週刊貴金属市況見通し

2012/2/6
岡藤商事株式会社

【先週の値動き】

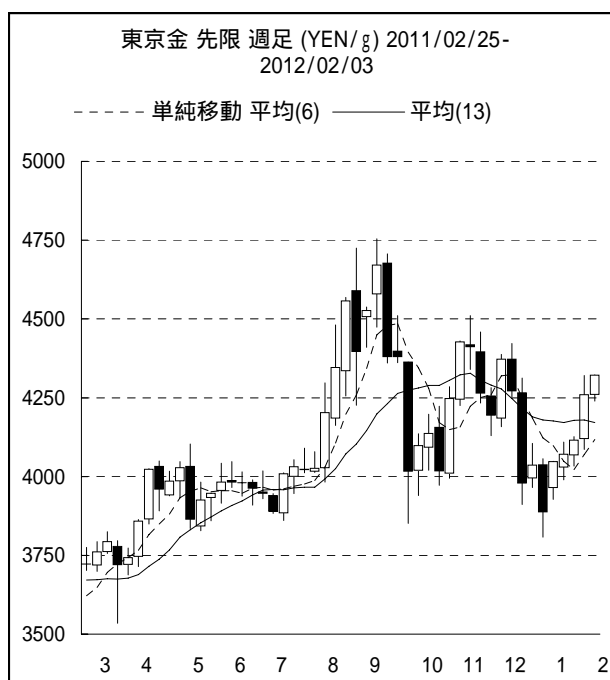
	週始値	週高値	週安値	週終値	今週の予想レンジ
東京金	4,260	4,323	4,239	4,322	4,200 ~ 4,400
東京銀	82.0	83.7	80.3	83.7	79.0 ~ 84.5
東京白金	3,987	4,026	3,900	4,020	3,950 ~ 4,100
東京パラジウム	1,707	1,760	1,681	1,760	1,680 ~ 1,800

【今週のポイント】

貴金属	<ul style="list-style-type: none"> ・ 為替相場、米国株価、米国経済指標、欧州財政問題 ・ ギリシャ追加支援の行方
-----	--

【金】

先週の金相場は週初安値 1716.19 ドルから上昇傾向を維持しつつ、週末高値 1762.90 ドルを経て 1724.44 ドルで越週した。1月FOMC(米連邦公開市場委員会)での金融緩和長期化追認とインフレターゲット導入のサプライズに1680ドル越えから買い戻しが加速したが、改善を見た米国雇用統計で目先の緩和期待が後退した。足元は1724ドル維持如何では一旦、1695ドルへの押し調整が先行しよう。欧州債務危機対応は不透明感が残りつつ欧州では金コイン等小口投資が活発化しているが、過度の不透明感拡大は一旦、米国市場発で利食い先行へ傾く。一旦押し形成時の下値1695(～1690)ドルで再度アジア実需の強さを確認して行くことも。東京金は円安もあり、4250～4200円を下値に再度の4400円方向をトライへ。



【銀】

NY3月限は反発傾向を維持した。先週は3293セントを安値に、高値3441セントを経て3374.90セントで越週した。金に追随して下値切上げ傾向となっている。上昇を継続中の銅価格の堅調も側面からサポート。ただ、金からの利食い先行で一旦、3250セントへの押し調整もありうる。1月は北米でもアメリカンイーグルコインの販売が増加するなど、投資的関心が戻りつつある。足元は3250セントの下値確認が先行しよう。東京は81～79円の下値確認から値堅め先行へ。



週刊貴金属市況見通し

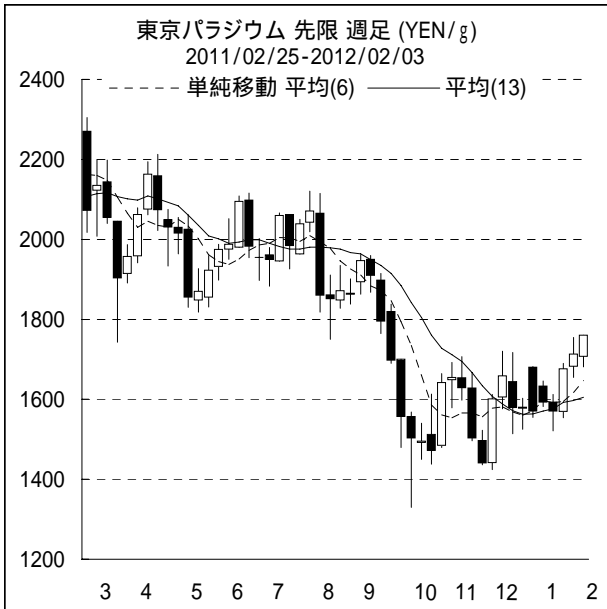
【白 金】

先週のNY4月限は続伸傾向を維持。1583ドルを安値に、高値1638.70ドルを経て1631.90ドルで越週した。白金単独の買いが発生しつつ次第にパラジウムも上昇しつつPGM全般の上げとなる。ただ、目先は金の利食い先行とドル高から押し形成も。南ア電力会社エスコムの設備メンテナンスに伴う鉱山生産・精錬への影響懸念をきっかけに、鉱山会社インプラッツでのスト発生が意識されが、インプラッツのストは一旦収束。目先は1600～1560ドルへの下値確認も。英JM社「Platinum2011 中間見通し」は小幅の供給過剰見通しとなった。あらためて南アの生産コスト1400～1450ドルを意識しての反発。東京は3950円を下値に4000円越えへの水準切り上げ傾向を維持しよう。



【パラジウム】

先週のNY3月限は安値679.55ドルから反発しつつ、週末717ドルを高値に708.85ドルで越週した。白金の上昇に追随しつつ現物背景の買いもあり、下値切上げの傾向となっている。一旦は690～680ドルの下値確認が先行しよう。英JM社の「Platinum2011 中間見通し」では供給過剰の需給バランスを確認している。長期的にはジュエリー部門での白金からの需要シフトの流れやロシア輸出減とスイス在庫タイト化が見込まれる。東京は1730～1680円を下値に1700円越えへの定着をうかがって行く展開。



週刊原油・石油製品市況見通し

2012/2/6
岡藤商事株式会社

【先週の値動き】

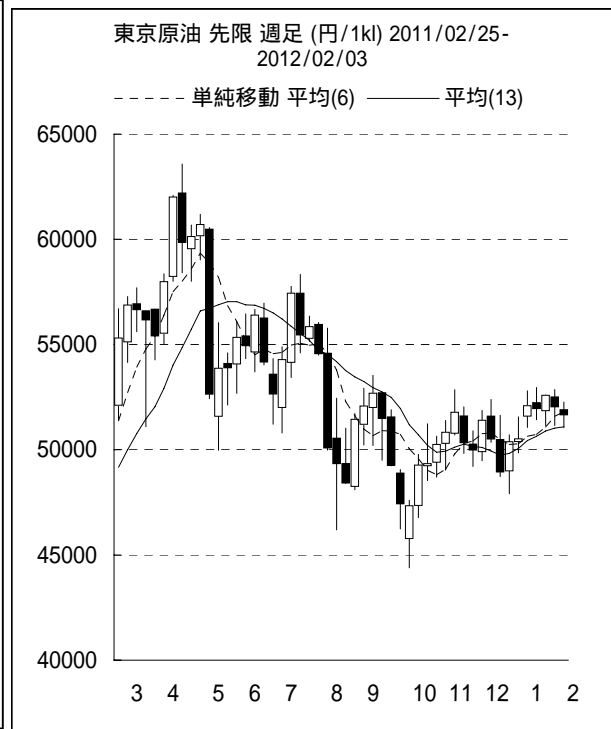
	週始値	週高値	週安値	週終値	今週の予想レンジ
東京原油	51,900	52,270	51,040	51,650	52,000 ~ 54,000
東京ガソリン	66,080	66,700	64,920	65,590	65,500 ~ 67,800
東京灯油	62,790	63,280	61,870	62,680	62,800 ~ 64,500
東京軽油	0	0	0	55,280	閑散にて表記無し

【今週のポイント】

原油	<ul style="list-style-type: none"> ・ 米国石油在庫（クッシング受渡し在庫、ガソリン軽質製品在庫） ・ 株価の推移などの景気動向 ・ 為替相場
石油製品	<ul style="list-style-type: none"> ・ WTI原油、ドバイ原油、ブレント原油の推移 ・ 為替相場

【原油】

先週のWTI3月限は、101.29ドルを高値に軟調傾向となった。安値95.44ドルを経て97.84ドルで越週した。BRENT原油3月限は110.25ドルを安値に反発しつつ、高値114.71ドルを経て114.58ドルで越週した。北海原油FORTIESの対ロンドン・ブレントはプレミアムへ転換。BRENTは期近からバックワーデーションとなつつある。欧州の全体需給はリビア原油の輸出増加もあり過剰感が強まっているがスポット需給は2月積みカーゴの遅れもあり次第に供給はタイト化。東京はWTI安ながらブレント上昇とオマーン原油の影響を受け続落は回避。目先は52,000円を下値に上向き開始の兆候あり。



【ガソリン】

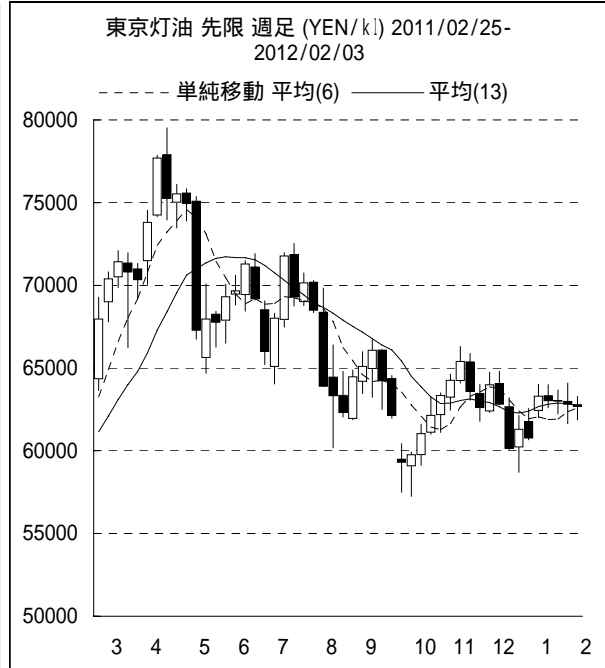
東京ガソリンは、京浜現物市場では2月渡しの取引に移行しつつ、現物大手元売りによる現物調達は継続されている。ただ、冬季とあって陸上販売価格は据え置き気味で物流停滞から市況は停滞気味のような。この冬季需給を映して上値の重い環境が続く。足元はブレントの上昇がオマーン原油の下値切上げに波及し、保合気味ながらも下値切上げ傾向が見込まれる。目先は65,500円を下値に67,800円方向の上げ相場となろう。



週刊原油・石油製品市況見通し

【灯油】

東京灯油は、冬季需給を映しつつ、2月半ばまでが京浜での販売最盛期となり、合わせて西日本の天候が国内需給にとっては注目点となる。寒波の影響が残るものの、現物需給には次第に余剰感もあり失速気味。関東での販売最盛期ピークを先取りする形で東京期近には調整下落圧力がかかる。ただ、ブレントからオマーン原油の上げもあり、目先は62,800円を下値に64,500円をためず動きとなる。



【軽油】

京浜現物市況は原油高や他油種高に追随。
極端な薄商いにて特に注意が必要。あわせて予想レンジも記載無し。

週刊大豆・トウモロコシ市況見通し

2012/2/6
岡藤商事株式会社

【先週の値動き】

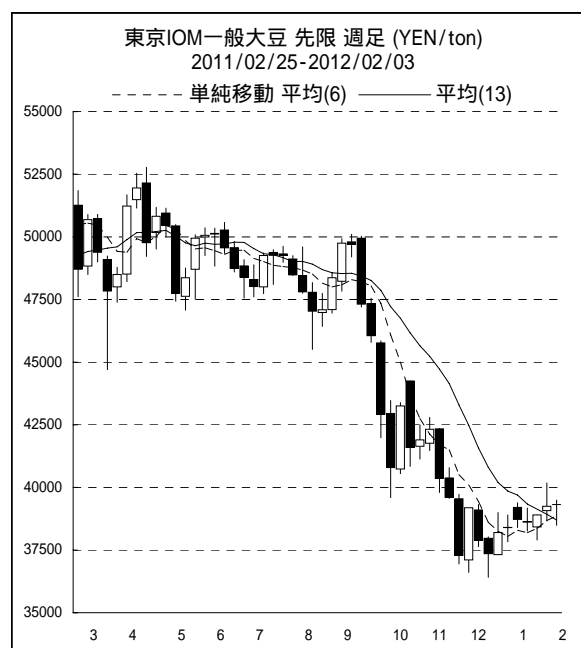
	週始値	週高値	週安値	週終値	今週の予想レンジ
東京一般大豆	39,310	39,500	38,490	39,320	38,000~42,000
東京とうもろこし	23,120	23,250	22,710	23,040	22,500~24,500

【今週のポイント】

大豆	<ul style="list-style-type: none"> 南米産地の天候と生育 米農務省需給報告（9日） 米国の生産計画
トウモロコシ	<ul style="list-style-type: none"> 南米産地の天候と生育 米農務省需給報告（9日） 米国のエタノール需要 米国の生産計画

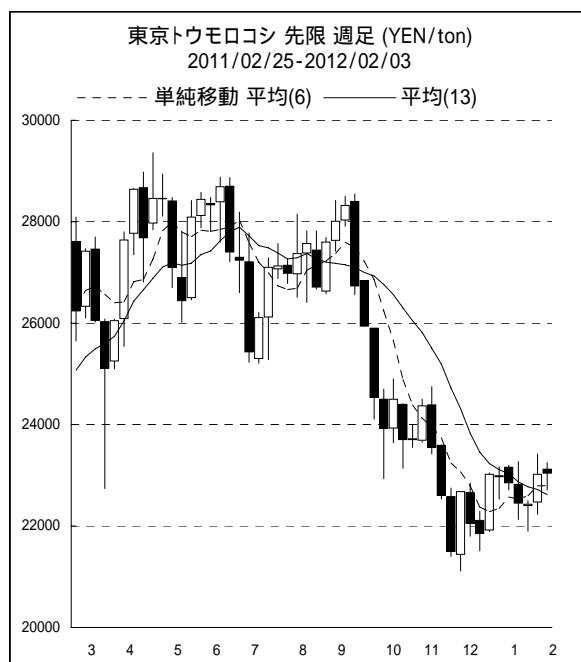
【大豆】

先週のシカゴ大豆は、30日の1184.50セントを安値に反発、1232.50セントで越週した。東京一般大豆は27日の一時40,000円越えから反落も38,500円を支持に反発、39,320円で越週。南米ではアルゼンチンで乾燥が続き、一段の生産下方修正の見通しが強まり、米国大豆の輸出需要拡大観測が下支えになった。また、市場の関心は次第に米国の2012年作付面積に向かい、現状ではトウモロコシが割高でトウモロコシの増反、大豆の減反が見込まれることも大豆価格の支援。米農務省は9日に需給報告、13日に長期需給見通しを発表、23~24日にはアウトルック・フォーラムで生産予想が示されるため、発表に応じて荒い動きとなりやすい。ただ、全体には需給は締まる傾向にあり、強気有利の展開と見られる。



【トウモロコシ】

先週のシカゴトウモロコシは、630セントを支持に上値を伸ばし、644.50セントで越週した。東京トウモロコシは23,000円前後の小動きとなり、23,040円で越週した。アルゼンチンでは乾燥が一時より緩和したもの、降雨不足が続き、一段の生産下方修正が見込まれ、目先は9日の米農務省需給報告での南米生産高見通しが注目される。ただ、次第に関心は2012年の米国生産計画に移り、3日終値でシカゴ大豆・トウモロコシ3月限の価格比(大豆÷トウモロコシ)が1.91とトウモロコシが割高のため、トウモロコシ生産を優先させるとの見方が強い。13日の長期見通し、23~24日のアウトルック・フォーラムと穀物関係の発表で値幅が振れることはあろうが、昨年後半の下げが一巡、ひっ迫感を背景に戻りを試す展開が見込まれる。



週刊コメ市況見通し

2012/2/6
岡藤商事株式会社

【先週の値動き】

	週始値	週高値	週安値	週終値	今週の予想レンジ
東京コメ	13,960	14,170	13,920	14,120	13,500 ~ 14,500

【今週のポイント】

コメ	<ul style="list-style-type: none">・ 23年産福島産、近県産の政府買い上げタイミングと余剰米の行方。24年産作付け動向。
----	---

【コメ】

平成 23 年産福島中通り産米の受け渡し
が主体となる中で、14000 円の値位置が地相場
化する可能性がある。ただ、加工米が不足
する中で、価格の安さから代替需要で福島産が
買われ、銘柄米の余剰現物の発生もなく、流
通事情はひっ迫傾向で、秋田こまち、宮城ひ
とめ、北海道きららの取引量が増加傾向。
足元は 23 年福島産米が売り切った後、現在、
15,000 円台の現物流通水準と、福島産相場
となっている定期（東穀取、関西取）相場の
乖離が修正される可能性あり。政府買い入れ
実施の具体化や、24 年産米の同県作付け見
通しの不透明感から、端境期本格入りで上値
追いが強まることもあり得る。

東京コメ先限 週足 (YEN/60kg)
2011/08/12-2012/02/03



週刊ゴム・小豆市況見通し

2012/2/6
岡藤商事株式会社

【先週の値動き】

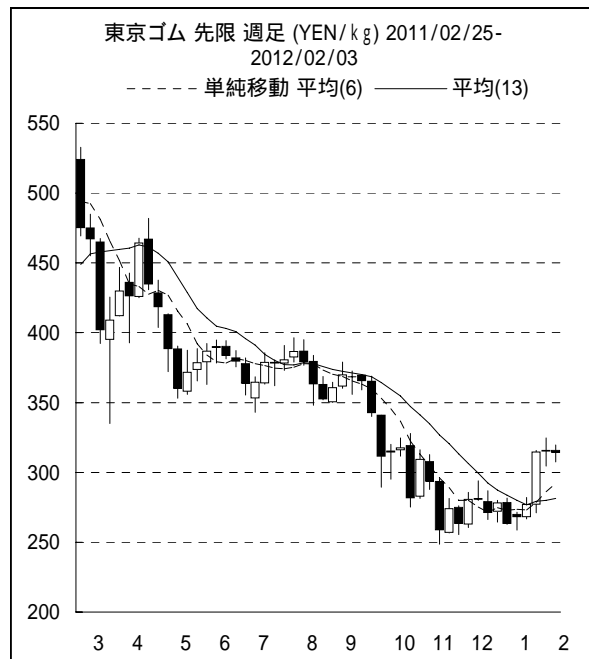
	週始値	週高値	週安値	週終値	今週の予想レンジ
東京ゴム	315.7	319.7	307.5	314.1	310.0 ~ 340.0
東京小豆	11,380	11,660	11,180	11,450	11,200 ~ 11,800

【今週のポイント】

ゴム	<ul style="list-style-type: none"> ・ タイ政府の価格支援策 ・ 中国の景気先行き懸念
小豆	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国際穀物市場全般の動き

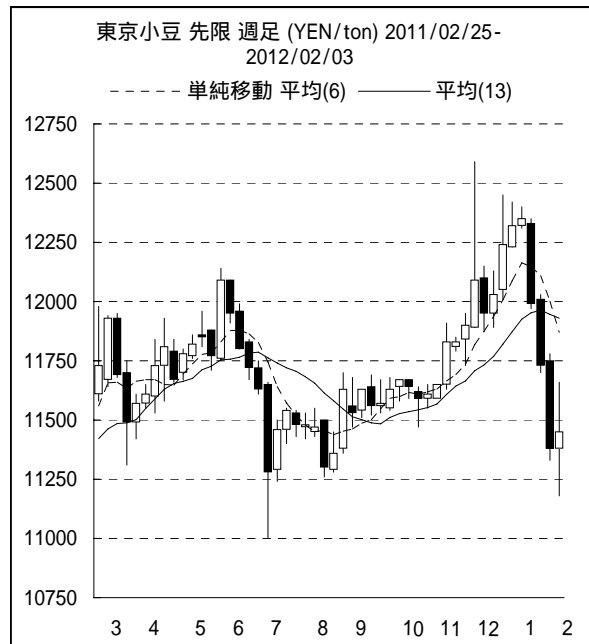
【ゴム】

先週の東京ゴムは、26日の高値からの反落が31日の307.5円で一巡。310円前後での推移となり、314.1円で越週。週明け6日は320円超えへ上昇している。タイ政府が同国内のゴム価格支援策として、1月24日に政府によるゴム買い上げの方針を決定。予算を閣議で承認したことから320円へ急伸。ただ、旧正月の大型連休明けの上海市場では上値が重く、調整保合入りとなった。週末に上海市場のゴム在庫が2000トン減となったこともあり、週明けは上値を伸ばしている。また、時期的にウィンタリングで減産期に入ることも下支えに。11~1月前半の下値保合を経て地合転換、300円超えに支持を切り上げており、押し目買いスタンス。



【小豆】

先週の小豆は31日の11,180円で年初からの下げが一服。11,660円への戻りを入れたが11,450円へ反落して引けた。2011年の北海道の不作で上昇したが、中国産小豆の新穀流入もあって国内在庫は増加、7月はじめ以来の水準へ急落した。急落から一旦戻りを試すも11,700~11,800円が上値抵抗。目先は戻り売りで再度11,200円水準の支持を試す。ただ、国際穀物市場は反発傾向にあり、小豆にも下支えとなるため、下値は限定的か。



週刊粗糖・コーヒー市況見通し

2012/2/6
岡藤商事株式会社

【先週の値動き】

	週始値	週高値	週安値	週終値	今週の予想レンジ
東京粗糖	42,120	42,440	40,720	41,000	40,000 ~ 43,000
東京アラビカコーヒー	23,910	24,370	23,800	24,100	22,000 ~ 26,000

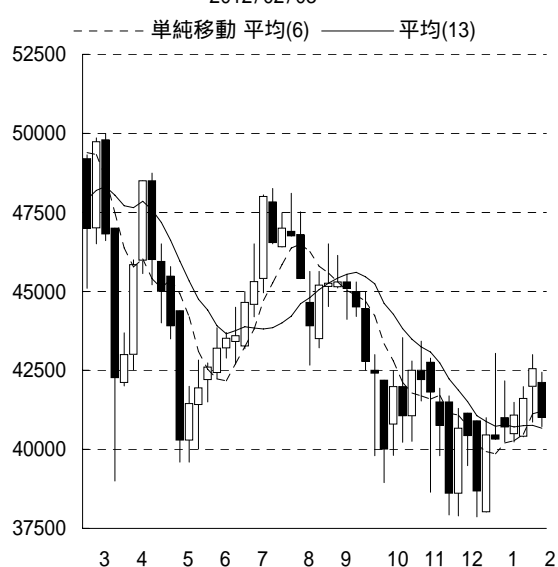
【今週のポイント】

粗糖	<ul style="list-style-type: none"> 世界的な増産傾向 インドの輸出動向 ・ ブラジルの压榨開始が遅れる見通し
コーヒー	<ul style="list-style-type: none"> 商品指数の動き 中南米の生産見通し ・ ICE の認証在庫

【粗糖】

先週のNY粗糖は、週初に24セントを割り込み、23.41セントの安値を経て23.94セントで越週した。ブラジルの乾燥による压榨開始遅れ見通しで1月後半には25セントへ上昇したが、インドの輸出拡大見通しや、洪水で遅れたタイの压榨が進んでいることからアジア地域の需給緩和が見込まれ反落。それでも23セント台半ばが支持となり、底堅い動き。23~24強セントの下値保合から戻りを試す展開で、押し目買いスタンス。ただし、東京市場は取引が閑散な為、注意。

東京粗糖 先限 週足 (YEN/ton) 2011/02/25-2012/02/03



【コーヒー】

先週のNYアラビカは、一時210.95セントまで下げる場面があったが、概ね215セント前後の保合で推移し、215.95セントで越週した。ブラジルの2012年生産は周期的な増産年もあって過去最大になる見通し。また、ICEの認証在庫も昨年11月以降回復傾向にあり、全米グリーンコーヒー港湾在庫も12月末時点では5ヵ月ぶりに増加に転じるなど逼迫感が後退している。現状は昨年の長期下降トレンドが一服し、下値保合から動意待ち。ただ、上値の重い状態は続いており、200セントへの続落を視野に入れる。ただし東京市場では、取引が閑散な為、注意。

東京アラビカコーヒー 先限 週足 (YEN/69kg) 2011/02/25-2012/02/03



■ 取引証拠金について

商品先物取引は委託に際して取引証拠金等の預託が必要になります。最初に預託する証拠金の額は商品により異なり、最低取引単位(1枚)当たり最高 166,000 円、最低 17,000 円です(2012 年 2 月 1 日現在)。但し、その後の相場の変動によって追加の預託が必要になることがありますので、注意が必要です。また、その額は、商品や相場の変動によって異なり、一様ではありません。

[取引証拠金額一覧表] <http://www.okato.co.jp/okato/expert/pdf/honsyo.pdf>

※証拠金合計額は、各銘柄「売」・「買」の残玉枚数が多い方の値に、各銘柄 1 枚当たりの取引証拠金額を乗じ、これらを合算した金額になります。(追加の預託:「納会月割増額」の必要がある場合は、各銘柄「売」・「買」の残玉枚数の多い方の値に、「納会月割増額」を乗じた金額も加算されます。)

■ 商品先物取引のレバレッジについて

商品先物取引は証拠金取引であるため、取引の対象である総取引金額(約定値段等)に取引単位の倍率と取引数量を乗じて得た額は、取引証拠金の 5~100 倍程度となります。なお、このレバレッジは 2012 年 2 月 1 日時点のものであり、証拠金額と商品価格によって変動いたします。

■ 商品先物取引のリスクについて

商品先物取引は取引証拠金の額に比べて何十倍もの金額の取引を行うため、価格変動が予測に反して推移した場合には大きな損失が発生する可能性があり、また、その変動の幅によっては損失が預託した証拠金を上回る場合がございます。

■ 手数料について

商品先物取引の委託には委託手数料がかかります。インターネット商品先物取引『Expert』のシステムを利用した場合、標準取引は全銘柄共通、通常取引 1 枚あたり往復 756 円(内消費税相当額 36 円)・日計り取引 1 枚あたり往復 378 円(内消費税相当額 18 円)、ミニ取引は全銘柄共通、通常取引 1 枚あたり往復 378 円(内消費税相当額 18 円)・日計り取引 1 枚あたり往復 189 円(内消費税相当額 9 円)の委託手数料がかかります。また、電話による代行注文をお受けした場合、1 枚あたり片道 3,150 円(内消費税相当額 150 円)の委託手数料がかかります。(手数料合計額は往復手数料×取引枚数になります。)

上記の手数料は 2012 年 2 月 1 日時点のものであり、変更される場合があります。

◇ お取引に関する相談は

岡藤商事株式会社 コールセンター(管理課)

東京都中央区新川 2-12-16 TEL 03-3552-0440

日本商品先物取引協会 相談センター本部

東京都中央区日本橋小網町 9-4 TEL 03-3664-6243

ホームページ <http://www.nisshokyo.or.jp/>

※当社のディスクロズ資料は当社または日商協の本支部およびホームページでご確認いただけます。